

令和6年度

地球温暖化・資源循環対策等調査事業費

(気候変動緩和の科学的根拠に関する国際動向調査)

調査報告書

令和7年3月

公益財団法人 地球環境産業技術研究機構

はじめに

本報告書は令和6年度に経済産業省の委託事業として実施した「地球温暖化・資源循環対策等調査事業費（気候変動緩和の科学的根拠に関する国際動向調査）」の調査結果をまとめたものである。

気候変動に関する政府間パネル（IPCC）は、温暖化に関する科学的知見を収集・評価し、温暖化予測（第一作業部会）、温暖化影響と適応（第二作業部会）、温暖化緩和（第三作業部会）からなる報告書、さらに温室効果ガスの排出量及び吸収量の算出・報告手法に関わるガイドラインを作成する。これまでに6回にわたる評価報告書、多数の特別報告書等の作成がなされ、気候変動に関する国際連合枠組条約（UNFCCC）における温暖化抑制の目標数値に係る取り組み指針の科学的根拠となるなど、気候変動の国際交渉の方向性に多大な影響を与えてきた。

IPCCでは、令和5年度7月のIPCC第59回総会で第7次評価報告サイクル（AR7）のビューロー選挙が行われて新体制が立ち上がり、令和6年1月のIPCC第60回総会では、AR7で作成する成果物及びスケジュール等について議論が行われ、令和8年までに気候変動と都市に関する特別報告書、短寿命気候強制力因子（SLCF）に関する方法論報告書を作成すること、二酸化炭素除去（CDR）技術・炭素回収利用及び貯留（CCUS）に関する専門家会合を開催し方法論報告書を作成することが決定した。さらに令和7年3月のIPCC第62回総会ではAR7のアウトラインが承認されAR7サイクルの活動が本格的に開始した。

経済産業省は、特に温暖化交渉と関連が強い温暖化緩和（第三作業部会（WG3））を担当し、政府意見の取りまとめと発信、及び、我が国の執筆者間の情報交換や連携を促進する役割を持つ。こうした観点から、令和6年度の本調査事業では、IPCC総会に関連する情報収集・分析を行い、国内連絡会や産業界との意見交換会の開催を通じて執筆者間、および、産業界との情報交換や連携の促進、報告書ドラフト政府レビュー等のための情報収集・分析・報告・助言、及び、IPCC報告書に関するアウトリーチ活動等を行った。

本報告書で取りまとめた内容が、今後の地球温暖化対策の一助となれば幸いである。

公益財団法人 地球環境産業技術研究機構

目 次

1	IPCC 関連会合への出席と専門家派遣を通じた情報収集、分析	P.1
1.1	IPCC 総会への出席	
1.1.1	IPCC 第 61 回総会	
1.1.2	IPCC 第 62 回総会	
1.2	IPCC 関連会合への専門家派遣	P.4
1.2.1	CDR/CCUS に関する専門家会合	
1.2.2	第 7 次評価報告書 (AR7) スコーピング会合	
1.2.3	短寿命気候強制力因子 (SLCF) 方法論報告書 第 1 回執筆者会合	
2	IPCC 国内連絡会の開催補助	P.6
2.1	第 7 回 IPCC 国内連絡会	
3	アウトリーチ活動の準備	P.7
3.1	IPCC シンポジウム	
3.1.1	開催状況	
3.1.2	シンポジウムの概要	
3.1.3	講演発表・パネルディスカッションの概要	
3.2	IPCC ビューローと日本人研究者の非公式意見交換会	
3.2.1	開催状況	
3.2.2	意見交換会の概要	
3.2.3	ポスターセッションの概要	
4	IPCC 第 3 作業部会の日本人執筆者と産業界の有識者との非公式意見交換会	P.12
4.1	IPCC AR7 WG3 を見据えた有識者と産業界との意見交換会	
4.1.1	開催状況	
5	AR7 に向けた検討および執筆者選定に向けた手続きの補助	P.13
5.1	AR6 WG3 の日本人執筆者および有識者へのヒアリング	
6	総会・関連会合に関する調査と報告	P.14
6.1	IPCC スコーピング会合参加者へのヒアリング	
6.2	AR7 WG3 アウトラインドラフトと AR6 WG3 アウトラインの比較分析	

第1章 IPCC 関連会合への出席と専門家派遣を通じた情報収集、分析

今年度を実施した2件のIPCC総会（第61回総会及び第62回総会）への出席、3件のIPCC関連会合（CDR/CCUSに関する専門家会合、IPCC第7次評価報告書スコーピング会合、短寿命気候強制力因子（SLCF）方法論報告書第1回執筆者会合）を通じた情報収集、分析について記す。

1.1 IPCC 総会への出席

今年度で開催されたIPCC総会は以下の2件である。

- ・2024年7月27日～8月2日 IPCC第61回総会 ソフィア（ブルガリア共和国）
- ・2025年2月24日～3月1日 IPCC第62回総会 杭州（中華人民共和国）

これらの会合に出席し、調査・出席・文書の作成・報告、政府出席者に対する助言を行った。以下にそれぞれのIPCC総会の結果について記す。

1.1.1 IPCC 第61回総会 ソフィア（ブルガリア共和国）

IPCC第61回総会は7月27日から8月2日にかけて、ブルガリア共和国・首都ソフィアにおいて開催された。各国政府の代表を始め、世界気象機関（WMO）などの国際機関等から関係者が出席して開催され、日本からは環境省、文部科学省、農林水産省、経済産業省、林野庁、気象庁等から11名が出席した。今次総会ではIPCC第7次評価（AR7）サイクルのスケジュール、「気候変動と都市に関する特別報告書」及び「短寿命気候強制力因子（SLCF）インベントリに関する2027年IPCC方法論報告書」のアウトライン（章立て等の構成）等について議論が行われたが、AR7サイクルのスケジュールについては、今次総会での承認には至らず、引き続き議論を進めていくことになった。

1.1.2 IPCC 第62回総会 杭州（中華人民共和国）

IPCC第62回総会は2月23日から3月1日にかけて、中華人民共和国・杭州において開催された。各国政府の代表を始め、世界気象機関（WMO）などの国際機関等から関係者が出席して開催され、日本からは環境省、文部科学省、農林水産省、経済産業省、気象庁等から14名が出席した。今次総会ではIPCC第7次評価報告書本体（第1作業部会報告書、第2作業部会報告書、第3作業部会報告書）のアウトライン（章立て等）等について議論が行われ、そのアウトラインが以下のとおり決定した。

（IPCC第6次評価報告書）

（第1作業部会報告書）

政策決定者向け要約

技術要約

Chapter 1: Framing, methods and knowledge sources

Chapter 2: Large-scale changes in the climate system and their causes

Chapter 3: Changes in regional climate and extremes, and their causes

- Chapter 4: Advances in process understanding of Earth system changes
- Chapter 5: Scenarios and projected future global temperatures
- Chapter 6: Global projections of Earth system responses across time scale
- Chapter 7: Projections of regional climate and extremes
- Chapter 8: Abrupt changes, low-likelihood high impact events and critical thresholds, including tipping
- Chapter 9: Earth system responses under pathways towards temperature stabilization, including overshoot pathways
- Chapter 10: Climate information and services

(第2作業部会報告書)

政策決定者向け要約

技術要約

- Chapter 1: Point of departure, framing and key concepts
- Chapter 2: Vulnerabilities, impacts and risks
- Chapter 3: Current adaptation progress, effectiveness and adequacy
- Chapter 4: Adaptation options and conditions for accelerating action
- Chapter 5: Responses to losses and damages
- Chapter 6: Finance
- Chapter 7: Africa、Chapter 8: Asia、Chapter 9: Australasia、
- Chapter 10: Central and South America、Chapter 11: Europe、
- Chapter 12: North America、Chapter 13: Small Islands
- Chapter 14: Terrestrial, freshwater and cryospheric biodiversity, ecosystems and their services
- Chapter 15: Ocean, coastal and cryospheric biodiversity, ecosystems and their services
- Chapter 16: Water
- Chapter 17: Agriculture, food, forestry, fibre and fisheries
- Chapter 18: Adaptation of human settlements, infrastructure and industry systems
- Chapter 19: Health and well-being
- Chapter 20: Poverty, livelihoods, mobility and fragility

(影響と適応に関する1994年IPCCテクニカルガイドラインの改訂と更新)

- Section 1: Introduction
- Section 2: Adaptation in practice
- Section 3: Technical Guidelines
- Section 4: Tools, building blocks and enablers

(第3作業部会報告書)

政策決定者向け要約

技術要約

Chapter 1: Introduction and framing

Chapter 2: Past and current anthropogenic emissions and their drivers

Chapter 3: Projected futures in the context of sustainable development and climate change

Chapter 4: Sustainable development and mitigation

Chapter 5: Enablers and barriers

Chapter 6: Policies and governance and international cooperation

Chapter 7: Finance

Chapter 8: Services and demand

Chapter 9: Energy systems

Chapter 10: Industry

Chapter 11: Transport and mobility services and systems

Chapter 12: Buildings and human settlements

Chapter 13: Agriculture, Forestry, and Other Land Uses (AFOLU)

Chapter 14: Integration and interactions across sectors and systems

Chapter 15: Potentials, limits, and risks of Carbon Dioxide Removal (CDR)

今後は、執筆者の政府推薦期間を経て、IPCC により執筆者が選定され、執筆者会合、及びそこで作成された草案の専門家/政府査読を経て、IPC 総会において各作業部会の評価報告書が承認される予定。その他、AR7 サイクルのスケジュール等は次回総会以降引き続き議論を進めていくことになった。

1.2 IPCC 関連会合への専門家派遣

今年度は下記の IPCC 関連会合への専門家派遣が実施された。

1) 2024 年 7 月 1～3 日

Expert Meeting on Carbon Dioxide Removal Technologies and Carbon Dioxide Capture, Use and Storage：ウィーン（オーストリア）

派遣専門家：秋元圭吾氏（公益財団法人 地球環境産業技術研究機構）

2) 2024 年 12 月 9～13 日

IPCC 第 7 次評価報告書（AR7）スコーピング会合：クアラルンプール（マレーシア）

派遣専門家：杉山昌広氏（東京大学）

長谷川知子氏（立命館大学）

森田香菜子（慶應義塾大学）

3) 2025 年 3 月 24～26 日

短寿命気候強制力因子（SLCF）方法論報告書 第 1 回執筆者会合：杭州（イギリス）

派遣専門家：藤森俊郎氏（株式会社 IHI）

各関連会合へ派遣される専門家と調整して、航空機、ホテルの予約、手配、支払等の業務を行った。会議終了後は、速やかに、派遣された専門家に会議資料及び会議概要をまとめた報告書の提出を求め、地球環境対策室へ提出した。なお、報告書の内容は、IPCC の規則により部外秘とする。

それぞれの専門家派遣会合の内容を以下に記す。

1.2.1 Expert Meeting on Carbon Dioxide Removal Technologies and Carbon Dioxide Capture, Use and Storage: 2024 年 7 月 1～3 日。ウィーン（オーストリア）

CDR/CCUS 方法論報告書のスコーピング会合に先立ち CDR/CCUS に関する専門家会合が開かれることとなり、秋元 圭吾氏（公益財団法人地球環境産業技術研究機構）が IPCC インベントリタスクフォース（TFI）の共同議長より本会合への招聘を受けた。本会合へ参加頂き、情報収集・分析を行った。日本から他に、田辺 清人氏（元 TFI 共同議長 公益財団法人地球環境戦略研究機関）、足立 宗喜氏（慶應義塾大学）が選出されていた。

1.2.2 IPCC 第 7 次評価報告書（AR7）スコーピング会合：2024 年 12 月 9～13 日。クアラルンプール（マレーシア）

IPCC 事務局から、第 7 次評価報告書のスコーピング会合への第三作業部会出席者として選定されていた）杉山昌広教授（東京大学）、長谷川知子教授（立命館大学）、森田香菜子准教授（慶應義塾大学）が、クアラルンプール（マレーシア）で 12 月 9 日から 13 日に開催された AR7 評価報告書スコーピング会合へ出席された。地球環境連携室の指示のもと、専門家派遣の所要手続きを取り、本会合へ参加頂き、情報収集・分析を行った。本スコー

ピング会合には、日本からは、他に下記の 5 名が出席されている。

WG1：平林 由希子教授（芝浦工業大学）、大島長主任研究官（気象研究所）、

WG2：森信人教授（京大防災研）、栗原晴子教授（琉球大学）

WG3：飯山みゆき氏（国際農研（JIRCAS）東大）農水省推薦

1.2.3 短寿命気候強制力因子（SLCF）方法論報告書 第 1 回執筆者会合：3 月 24～26 日。ビルバオ（スペイン）

短寿命気候強制力因子（SLCF）方法論報告書 第 1 回執筆者会合が 3 月 24～26 日にスペインのビルバオで開催された。地球環境連携室の指示のもと、ノミネーションにて主執筆者（LA）として選出された藤森俊郎氏（株式会社 IHI）に専門家派遣の所要手続きを取り、参加いただき、関連情報収集・分析を行った。

本方法論報告書の執筆者には、日本からは、他に下記の 6 名が選出されている。黒川純一氏（アジア大気汚染研究センター）、森川 多津子氏（日本自動車研究所）、森下智陽氏（森林研究・整備機構）、小田知宏氏（USRA）、大原利眞氏（アジア大気汚染研究センター）、金谷 有剛氏（JAMSTEC）

第2章 IPCC 国内連絡会の開催補助

本章では IPCC 関連の国内の委員会である IPCC 国内連絡会について記述する。

IPCC 国内連絡会の開催に当たって、IPCC 第三作業部会の第6次評価報告書執筆者及び他 WG 支援事務局と日程・議題の調整を行い、国内連絡会の開催補助を行った。出席した IPCC 第三作業部会の委員には交通費・謝金を支払った。

2.1 第7回 IPCC 国内連絡会

第7回国内連絡会は1月31日に開催された。開催に当たっては、今回は文部科学省が主催となるため、WG1 支援事務局であるリモート・センシング技術センター (RESTEC) が代表事務局を担当し、日程調整のとりまとめ、配布資料の準備、議事概要の作成、当日運営等を行った。RITE は WG3 事務局として他 WG 支援事務局と連携し、当日の準備から開催補助を行うとともに国内連絡会に参加した。

以下に議事概要を示す。

●会議詳細

日 時： 2025 年 1 月 31 日 (金) 10:00 ~ 12:00
開 催 形 式： ハイブリッド形式
対面開催場所： 日比谷三井カンファレンス 8 階 Room1&2
出 席 者： IPCC 国内連絡会メンバー

●議事次第

- 1 開会挨拶・趣旨説明
- 2 AR7 サイクルの進捗報告
- 3 WG1・2・3 合同スコーピング会合報告及び意見交換
 - 3.1 WG1 参加報告・意見交換
 - 3.2 WG2 参加報告・意見交換
 - 3.3 WG3 参加報告・意見交換
- 4 その他
 - ・ CDR/CCUS 方法論報告書の報告及び意見交換

第3章 アウトリーチ活動の準備

IPCC の第 7 次評価報告書 (AR7) や特別報告書等の最近の活動について、一般の理解を深めるために、気候変動の緩和に関する最新の知見及び今後の方向性等に関して報告し議論を行うシンポジウム及び意見交換会を企画し、地球環境対策室と適宜調整の上、開催した。

あわせて、産業界との非公式意見交換会を実施した。

3.1 IPCC シンポジウム

3.1.1 開催状況

令和 6 年 9 月 12 日 (木) に虎ノ門ヒルズフォーラムおよびオンラインにて、経済産業省、文部科学省、気象庁主催、環境省、農林水産省、林野庁、国土交通省共催で、IPCC シンポジウム「IPCC 第 7 次評価報告書に向けて ～暑すぎる地球で暮らす私たちにできること～」と題するシンポジウムを開催した。

シンポジウムの冒頭で、Jim Skea 議長からビデオメッセージがあり、日本政府や研究機関に対する、AR7 に向けた期待が述べられた。Ladislaus Chang'a AR7 副議長からは「The Overview of the IPCC, Organization and some key findings of the Sixth Assessment Report」と題して、IPCC の概要や AR6 の主要な調査結果が述べられた。Winston Chow WG II 共同議長から「IPCC 気候変動と都市に関する特別報告書 -今後のロードマップ」と題して基調講演 (ビデオ) があり、報告書のアウトラインや各章における主なトピックなどについて解説が行われた。Bart van den Hurk WG II 共同議長は「気候適応政策の実施に向けたサポート：技術ガイドラインのアップデート」と題して、気候モデルの進展や、適応への取り組みについて述べられた。Joy Jacqueline Pereira WG III 共同議長 (オンライン) からは「IPCC WG III AR7」と題して、WG III の今後の活動概要が述べられた。後半のパネルディスカッションでは、モデレータを東京大学の沖大幹教授が務め、パネリストは Winston 氏を除く基調講演の 3 名の IPCC ビューローに加えて、榎剛史 TFI 共同議長、各 WG から東京大学の小坂優准教授 (WG1)、慶応大学の森田香菜子准教授 (WG3) が登壇され、「行動を促す IPCC 評価報告書にするには何が必要か」というテーマに沿って議論が行われた。基調講演や AR7 に向けた意見や疑問など、オンライン含む参加者の方々からの意見や質問もあり多様な視点から活発な議論が行われた。当日の参加者は会場 55 名、オンライン 439 名、出席者合計：494 名であった。

3.1.2 シンポジウムの概要

日 時：2024 年 9 月 12 日 (木) 14:30-17:30

場 所：虎ノ門ヒルズフォーラムおよびオンライン

(東京都港区虎ノ門 1-23-3 虎ノ門ヒルズ森タワー 5 階)

主 催：経済産業省、文部科学省、気象庁

共 催：環境省、農林水産省、林野庁、国土交通省
 後 援：地球ウォッチャーズ－気象友の会－
 参加者数：494 名（会場 55 名、オンライン 439 名）

受付開始	14：00	
開会・主催者挨拶	14：30	朝日 政務官（環境省）
基調講演	14：35	Ladislavus Chang'a（WG I 副議長） Winston Chow（WG II 共同議長）※ビデオメッセージ Bart van den Hurk（WG II 共同議長） Joy Pereira（WG III 共同議長）※オンライン
休憩	15：35	
パネルディスカッション	15：55	「What are actionable assessment reports? 行動を促す IPCC 評価報告書にするには何が必要か？」 モデレータ：沖 大幹（東京大学 教授） パネリスト：Ladislavus Chang'a（WG I 副議長） Bart van den Hurk（WG II 共同議長） Joy Jacqueline Pereira（WG III 共同議長） 榎 剛史（TFI 共同議長） 小坂 優（WG I 執筆者 東京大学 先端科学技術研究センター 准教授） 森田香菜子（WG III 執筆者 慶応義塾大学 経済学部 准教授）
閉会挨拶	12：30	清浦 審議官（文部科学省）

3.1.3 講演発表・パネルディスカッションの概要

シンポジウムにおける講演発表、及びパネルディスカッションの結果概要を以下に記す。

- 基調講演 1：「The Overview of the IPCC, Organization and some key findings of the Sixth Assessment Report」

Ladislavus Chang'a（WG I 副議長）

今回の基調講演では、IPCC 第 7 次評価報告書をまとめるに際して、次の内容にて講演された。IPCCWG I の概要や歴史に触れつつ、近年の状況として温暖化により異常気象の強度と頻度が増加していること等の説明がなされた。その後、若手研究者へ気候変動科学と IPCC プロセスへの参加を強化することを奨励され、AR7 では特に南半球の専門家の参加促進等の説明がなされた。

- 基調講演 2：「気候適応政策の実施に向けたサポート：技術ガイドラインのアップデート」

Bart van den Hurk (WG II 共同議長)

今回の基調講演では、IPCC 第 7 次評価報告書をまとめるに際して、次の内容にて講演された。IPCC WG II の概要や歴史に触れつつ、近年の状況として気候モデルの予測精度の進展や適応への具体的な取組等について説明がなされた。

■ 基調講演 3：「IPCC WGIII AR7」

Joy Pereira (WGIII 共同議長) ※オンライン

今回の基調講演では、IPCC 第 7 次評価報告書をまとめるに際して、次の内容にて講演された。IPCC WGIII の今後の活動内容、特に TFI との連携強化、WGIII 内での連携強化、包括性の強化の 3 点に関して注力していく旨を述べられた。

■ パネルディスカッション：

テーマ『What are actionable assessment reports?』

行動を促す IPCC 評価報告書にするには何が必要か?』

モデレータ：沖大幹 (東京大学 教授)

パネリスト：Ladislav Chang'a (WG I 副議長)

Bart van den Hurk (WG II 共同議長)

Joy Jacqueline Pereira (WGIII 共同議長)

榎剛史 (TFI 共同議長)

小坂 優 (WG I 執筆者 東京大学 先端科学技術研究センター 准教授)

森田香菜子 (WGIII 執筆者 慶応義塾大学 経済学部 准教授)

東京大学の沖大幹教授をモデレータとして、3 名の基調講演者に加え、AR6 報告書の執筆に関わられた各 WG の日本の研究者の方々をパネリストにむかえ、「What are actionable assessment reports? 行動を促す IPCC 評価報告書にするには何が必要か?」というテーマにパネルディスカッションを行なった。具体的なディスカッションの内容は次の通り。

- ・自然科学的根拠 (WG1) について、AR7 で焦点となりそうな issue は何か?
- ・猛暑や、極端な豪雨などの現象がすでに増えてきている現実に起きているとの市民の声に対して、どのように現状を説明できるか?
- ・発生する可能性は低くても、実際におこると大きな被害が懸念される気象災害などについて、どの程度前もって予測をしたり、対処するための知見が IPCC で得られそうか?
- ・気候変動の影響・適応・脆弱性 (WG2) について、AR7 で焦点となりそうな issue は何か?
- ・気候変動に対する影響は、地域ごとに異なる。各国の気候変動の影響としてどのような

ものがあげられるか？

- ・実際に地域別に、どのような気候変動リスクがあり、それに対してどのような適応策が必要で、どこまで適応できるのか？ IPCC の報告書では、どの程度この質問に答えていけるか？
- ・気候変動の緩和(WG3)について、AR7 で焦点となりそうな issue は何か？
- ・気候変動の緩和は、大気に排出する温室効果ガスを減らすとともに、大気中の温室効果ガスを減らすことが重要と考えられている。そのためには、温室効果ガスが、どこで、どういうセクターからどの程度排出されているのか、現状を詳しく知る必要がある。この点について、IPCC はどのような役割を果たしていくか？
- ・第6次評価報告書まで、さまざまな緩和策に関する議論が進められてきた。次の第7次評価報告書において、どのような部分が新たな焦点になりそうか？
- ・現在、世界的に持続可能な社会（SDGs）の実現に向けた取組も行われている。SDGs を考慮しながら、気候変動の緩和策を実施していく必要があるかと思うが、我々は具体的にどのように取り組んでいったらよいか
- ・各国政府や我々市民の行動を促す AR7 にするにはどうすればよいか？
- ・Summary for Policy Makers の記述について正確性を失わない範囲で明確なメッセージをよりわかりやすく伝えるにはどのような工夫が必要/可能か？
- ・危険回避、利益追求、社会貢献など、人はいろいろな動機付けで行動を起こす。どういうメッセージをどのように伝えるのが climate actions を促すには有効か？

3.2 IPCC ビューローと日本人研究者の非公式意見交換会（以下、意見交換会）

3.2.1 開催状況

今回の意見交換会は、気候変動全般、について、若手研究者の IPCC の執筆への理解促進を目的に開催された。意見交換会の冒頭で、IPCC ビューローより AR7 の執筆に際し期待される人材などが述べられた。

その後、6 つの Gr に分かれて、IPCC ビューローや AR6 執筆者との Gr ディスカッションが 2 回（40～50 分）、参加者を入れ替え行われた。ポスターセッション兼コーヒーブレイクという形で IPCC ビューローと日本人研究者による交流の機会が設けられ、活発な議論が行われた。

3.2.2 意見交換会の概要

日 時：2024 年 9 月 13 日（金）13:30～16:30

場 所：場 所：虎ノ門ヒルズフォーラムおよびオンライン
（東京都港区虎ノ門 1-23-3 虎ノ門ヒルズ森タワー5 階）

招待者：IPCC シンポジウム海外招聘者、榎 TFI 共同議長、
Pereira 共同議長（web）、Siir KilkisWG3 副議長（web）

通 訳：なし（主に英語での議論）

プログラム：

13:30-13:35 開会挨拶：環境省 羽井佐室長（ホール B1-2）WG 合同

13:35-13:40 意見交換会の概要説明（ホール B1-2）WG 合同

13:40-13:45 移動（各テーブルの部屋）

13:45-14:35 RoundTable 1

14:35-15:05 ポスター&コーヒーブレイク（ホワイエ）

15:05-15:45 RoundTable 2

15:45-16:15 ポスター&コーヒーブレイク（ホワイエ）

16:15-16:25 総括（榎共同議長）（ホール B1-2）WG 合同

その他（関係省庁）

3.2.3 ポスターセッションの概要

最後に、ポスターセッションでは IPCC ビューローと日本人研究者による交流の機会が設けられ、活発な議論が行われた。

第4章 IPCC 第3作業部会の日本人執筆者と産業界の有識者との非公式意見交換会

AR7 の執筆が開始されるにあたり、日本の重視する緩和に係るテーマについて、日本の産業界の最新の知見を WG3 執筆経験者と共有するために、IPCC 第3作業部会の日本人執筆者と産業界の有識者との非公式意見交換会を開催した。

この意見交換会のモデレーターを AR6 WG3 第12章の LA (Lead Author) である杉山昌広氏にお願いして、本意見交換会の企画について事前に相談させて頂き、また、当日は司会進行役をお願いした。また、本意見交換会に参加頂く産業界の有識者の人選については、幅広い産業分野から相応しい有識者を選ぶために各産業団体、および、地球環境対策室に推薦頂いて決定した。以下に本意見交換会の結果について記す。

4.1 IPCC AR7 WG3 を見据えた有識者と産業界との意見交換会

この意見交換会の会議名を「IPCC AR7 WG3 を見据えた有識者と産業界との意見交換会」と決めて、地球環境対策室、杉山昌広氏と協議をして、企画案の検討、運営準備を行い、意見交換会を開催した。

4.1.1 開催状況

「IPCC AR7 WG3 を見据えた有識者と産業界との意見交換会」の概要を以下に記す。

1. 日時： 令和7年3月19日(水) 10:00~12:30
2. 場所： イイノカンファレンスセンター Room B
3. 出席者：産業界の有識者、WG3 執筆者、経済産業省、事務局
4. 議題：
 - 1) 主旨説明
 - 2) AR7 アウトライン概要の説明
 - ① 「IPCC 第62回総会の結果について」 経済産業省 地球環境対策室
 - ② 「AR7 WG3 アウトラインについて」 東京大学 杉山昌広氏
 - 3) 産業界からの情報提供
 - ① 電力分野
 - ② 自動車分野
 - ③ 鉄鋼分野
 - ④ 水素分野
 - ⑤ アンモニア分野
 - ⑥ CCS 分野
 - 4) 意見交換
 - 5) まとめ

第5章 AR7に向けた検討および執筆者選定に向けた手続きの補助

昨年度に引き続き、AR6 WG3 報告書の日本人執筆者や有識者の先生方に対して、AR7 へ向けてのご意見や、AR7 で新規に執筆者として推薦をする若手研究者について、個別にヒアリングを行った。

5.1 AR6 WG3 の日本人執筆者および有識者へのヒアリング

IPCC では、2023 年 7 月に AR7 ビューロー選挙が行われて、その後、AR7 評価サイクルが開始した。日本政府として報告書のスコーピング会合参加者や執筆者の推薦を行うにあたり、AR6 WG3 の日本人執筆者や有識者に対して、ご自身の AR7 への期待や新たに執筆者に推薦をいただける若手研究者などに関するヒアリングを行った。

(1) ヒアリング方法

原則として、以下の要領でヒアリングを行った。

- ・それぞれの AR6 WG3 執筆者、有識者の方々に対して個別のヒアリングとする。
- ・可能な限り、対面形式で行う。

(2) ヒアリング項目

AR7 への期待や、新たに執筆者に推薦をいただける若手研究者等について広く自由な意見を伺った。

(3) ヒアリング結果

昨年度にヒアリングを行うことができなかった 4 名の有識者に対してヒアリングを実施した。

第6章 総会・関連会合に関する調査と報告

第1章 1.1 に記載の IPCC 第62回総会の事前検討として、AR7 スコーピング会合の参加者に対するヒアリング、および、AR7 WG3 アウトラインドラフトと AR6 WG3 のアウトラインの比較分析を行った。

6.1 IPCC スコーピング会合参加者へのヒアリング

IPCC AR7 スコーピング会合に参加した3名の研究者に対して、地球環境対策室と共にヒアリングを実施した。

6.2 AR7 WG3 アウトラインドラフトと AR6 WG3 アウトラインの比較分析

AR7 WG3 アウトラインドラフトと AR6 WG3 のアウトラインの比較分析を実施して、地球環境対策室に提出した。